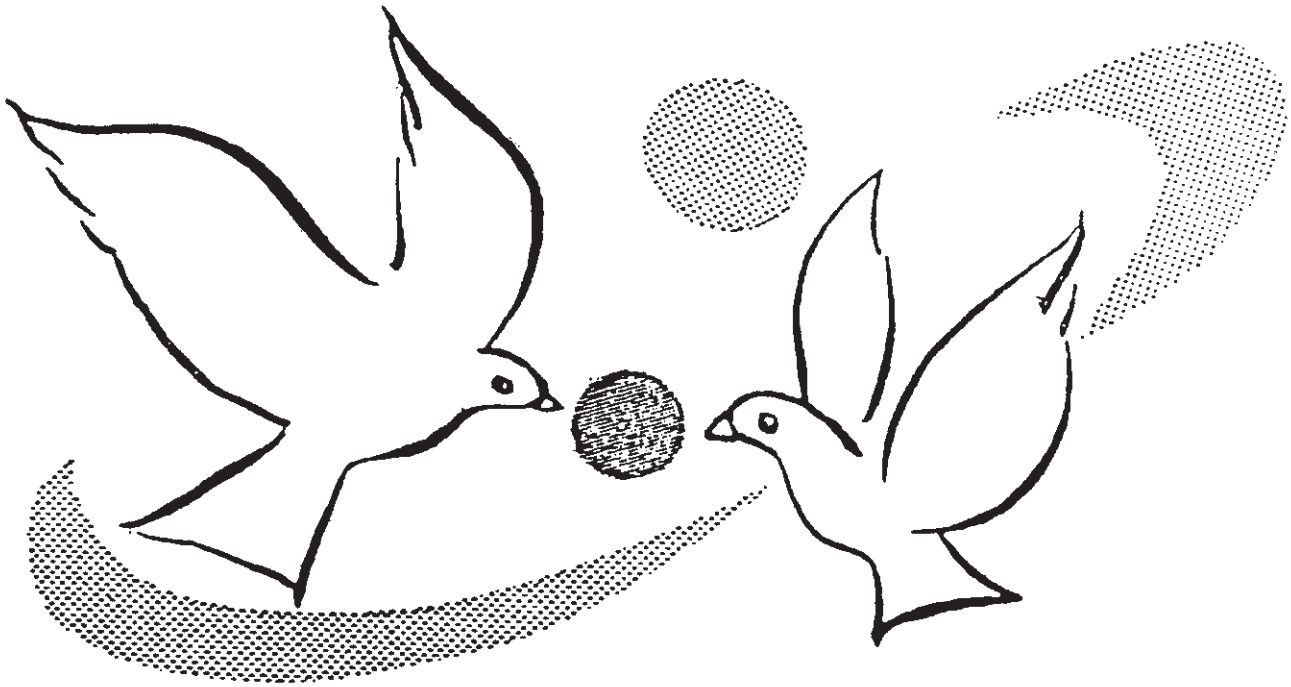
広島を訪ねて

平和のための
小中学生広島派遣団文集



―平成29年度―

（2017年度）

城　陽　市

市の木　梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。

南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。

市の花　花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月７日市制施行10周年を記念し制定。

豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。

市の鳥　しらさぎ

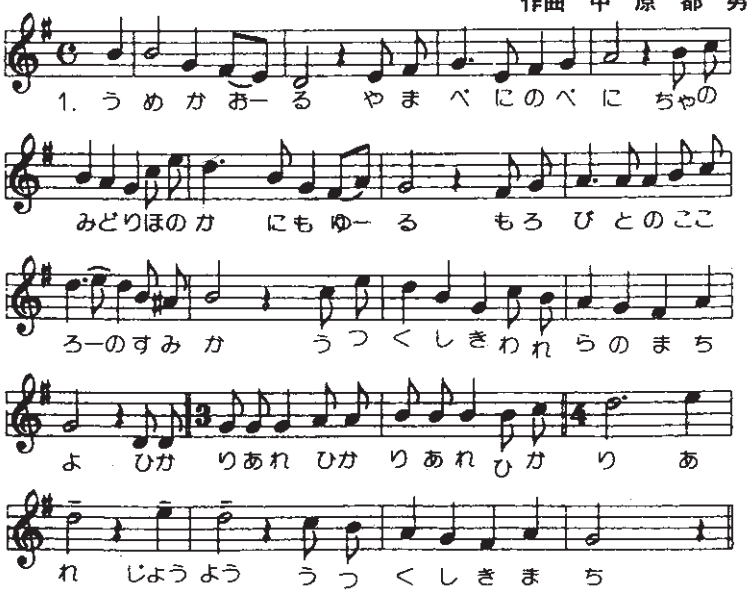
平成19年（2007年）11月７日市制施行35周年を記念し制定。

『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城　陽　市　歌

明るくのびのびと

作詞　龍村孟雄
作曲　中原都男



2．松あおき　鴻の巣山に
鳥啼きて　明るき陽ざし
こだまする　槌のひびきに
ひらけゆく　われらのまちよ
栄あれ　栄あれ　栄あれ
城陽　ひらけゆくまち

3．砂しろき　木津の流れに
黄金なす　稲穂のみのり
山の幸　野の幸さわに
ゆたかなる　われらのまちよ
恵あれ　恵あれ　恵あれ
城陽　ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）２月15日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い、町歌を市歌とした）

城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行４周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）４月26日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い町章を市章とした。）

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

一、自然を生かし　美しい緑を育てましょう
一、教養を深め　豊かな文化をつくりましょう
一、心身を鍛え　働く喜びを大切にしましょう
一、隣人を愛し　ふれあいの輪を広げましょう
一、秩序を守り　やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（１９８２年）11月７日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法の精神に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言

城陽市役所庁舎　南玄関前

平成２９年７月２７日（木）

城陽市役所集合

出発（小学生６年生２２名・中学生１０名　合計３２名）

昼　食

平和記念資料館（東館）見学

資料館地下展示場・情報資料室見学

被爆者講話（國分良德氏）

旅館　到着

入浴

夕食等

ミーティング

（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

消　　灯

平成２９年７月２８日（金）

旅館出発

↓

広島平和記念公園到着

原爆死没者慰霊碑

↓

広島二中原爆慰霊碑

↓

原爆の子の像

↓

（みんなで持ち寄った折鶴を捧げました）

原爆ドーム

爆心地

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

広島風お好み焼き体験（昼食）

広島市出発

城陽市役所帰着

解　散

目次

広島で学んだこと　古川小学校　6年　辻出聖奈　1
広島で学んだこと　古川小学校　6年　林優衣　2
広島で平和のことを学んで　古川小学校　6年　木田陽梨　2
原爆と広島　深谷小学校　6年　播摩太一　3
広島で学んだこと　深谷小学校　6年　三崎太一　4
広島を訪ねて　深谷小学校　6年　井ノ内祐矢　5
初めて知った、原爆の恐ろしさ　深谷小学校　6年　大塚純星　6
広島で学んだ事　深谷小学校　6年　井上竜輔　7
広島派遣団に参加して　寺田南小学校　6年　安田まどか　8
原爆が落ちたあの日　寺田南小学校　6年　高田萌衣　9
平和が一番　寺田南小学校　6年　山室心結姫　10
広島派遣団に参加して　青谷小学校　6年　小林舞香　11
広島に行って　青谷小学校　6年　竹内菜乃　12
広島に行って　青谷小学校　6年　音羽悠斗　12
広島に行って分かったこと　青谷小学校　6年　山本煌太朗　13
広島で学んだこと　青谷小学校　6年　中田圭哉　14
広島で学んだこと　青谷小学校　6年　中島百　15
広島に落ちた原爆のおそろしさ　青谷小学校　6年　井上翔太　15
広島に行って　青谷小学校　6年　北村紗歩菜　16

戦争の悲惨さと原爆のおそろしさ　青谷小学校　6年　望月優嗣　17
広島で学んだ二日間　青谷小学校　6年　雨宮凛　18
広島を訪ねて　青谷小学校　6年　圖子惟月　19
広島に行って印象に残った五つの事　西城陽中学校　1年　宗戸琴葉　20
広島で学んだこと　西城陽中学校　1年　増田百香　21
衝撃的だった二日間　西城陽中学校　1年　山本真央　22
二日間広島に行って　西城陽中学校　1年　三宅由華　23
広島派遣団に参加して　南城陽中学校　1年　南村心羽　23
広島に行って学んだこと　南城陽中学校　1年　内田匠海　24
広島に行って　南城陽中学校　1年　福井健二　25
広島に行って　東城陽中学校　2年　岡本虹夏　26
原爆がもたらした人々への苦しみ　東城陽中学校　2年　山本桜　27
苦労してきた広島県　東城陽中学校　3年　岸駿斗　28

広島で学んだこと

古川小学校　6年
辻　出　聖　奈

私が、広島で学んだことを紹介します。

私が、この広島派遣団に参加した理由は、原爆は日本で起こったことだし、日本がこれからも平和な国であって欲しいので、私達が戦争について語り継いでいきたいと思ったからです。また、私はあまり戦争について知らず、原爆にも興味があったので、戦争について知ることは、日本人として大切なことだと思い、参加しました。

原爆が落ちて七十五年間は、植物が育たないと言われていたのに、私がバスで行き着いた時に見た広島は、緑が豊かで、ビルや建物が立ち並び、人がたくさん歩いていて、とても活気にあふれていました。しかし、原爆ドームを見た時は、「本当にここに爆弾が落ちたんだなぁ」と思い、原爆ドームとその周辺を比較すると、七十二年の間に広島は生まれ変わったのだと感じました。

初日、お昼ご飯を食べた後、原爆資料館に行きました。資料館には、原爆についてくわしく分かる物が展示されていました。展示されている物の中で、私が一番心に残ったのは、原爆ドームの見本です。原爆ドームの見本は二つあり、一つは戦争前、もう一つは戦争後の原爆ドームでした。戦争前の原爆ドームは大きく立派でした。でも、戦争後は壁や屋根がほとんど無くなり、中はがれきでいっぱいでした。爆弾が真上に落ちたはずなのに、なぜ粉々にならなかったのかというと、真上で爆発して、爆風があまり当たらなかったので、粉々にならなかったそうです。その他の展示物を見てみると、どれもこげたり、変形したりしていました。

また、私のお父さんやお母さんも生まれていない時代に起きた戦争の時の服や物が、今のこの時代にも残っていて、平和を守っていくため、資料館に貴重に保管されていることがすごいと思いました。

その後、被爆者の講話を聞きました。その話では、いきなり目の前が「ピカッ」と光り、体が何ｍも飛び、意識を取り戻して道を歩いていると、「水をください」と、手の皮ふが垂れ下がり、服が破れて血だらけの大やけどを負った人々が、水を求めていたということを聞き、その人達は、痛くて熱くて悲しかっただろうと思いました。

翌日、花と折りづるをささげました。つるはたくさんあり、つるの数だけ平和を願う人がいるのだと思いました。

原爆ドームは、地震などでくずれないように、中に鉄の棒が入れられていて、中はがれきだらけで、その場所だけ戦争の苦しさや悲しさが残っているような気がしました。

最終日の昼食は、広島のお好みやきでした。自分で作ったお好みやきは美味しかったです。

これからも日本が平和であり続ける様、この体験を活かし、語り継いでいこうと思います。

広島で学んだこと

古川小学校　6年
林　優衣

私は、この二日間ではじめて、戦争や原爆のおそろしさを知りました。私が広島派遣団に参加した理由は、戦争や原爆のことをくわしく知りたかったからです。

一日目は、資料館の見学、被爆体験者の話を聞いたりしました。

資料館では、当時の写真、衣服などが、展示されていました。写真には、今、私たちがくらしている日常では考えられないくらいのやけどのあとや、がれきがいっぱい写っていました。衣服は焼けて穴があき、血の染みがついていました。中学生が食べようとしていたお弁当が、中身は炭に、外はボコボコにへこんでいたので、爆弾の力は本当に強いことが分かりました。

被爆体験者の話では、くわしく当時のことを話してくださいました。私は、その話を聞いて、原爆は、本当におそろしいと、強く感じました。

当時は、体に異変を感じなくても、時間が過ぎていくと、病気になったので、すごくこわいと思いました。

人々は、やけどを負って、うでから、ゆびさきまでひふがたれ下がっていたことも分かりました。

焼けこげた三輪車は、今にもこわれそうな気がしました。それだけ、当時のままのものを展示されているということは、すごいなと思いました。

二日目は、慰霊碑に心をこめてお花をささげ、原爆の子の像にも心をこめて千羽づるをささげました。私がそこで、おどろいたことは、千羽づるで絵にしたり、文字に見えるように、つられた千羽づるがあったことです。

原爆ドームはところどころくずれ、今にも全体がくずれそうなくらいでした。当時のまま残してあるということがよく分かりました。この原爆をもっといろんな人に知ってもらうために、原爆ドームを鉄の柱で支え、大きな地震がきても、たえられるように、工夫がされていました。

私は、この二日間、広島で、いろいろなことを学びました。この原爆で広島の多くの人々が苦しみ、亡くなっています。これからも、今のような平和な日本であり続けていてほしいです。

私が広島で学んだことを、この原爆を知らない人に伝え、理解してほしいです。

広島で平和のことを学んで

古川小学校　6年
木田陽梨

私は、広島派遣団として広島に行ってきました。そこで初

めて戦争のことや広島に原爆が落とされたことについて知りました。今まで私は、戦争のことや原爆のことを知らなかったし、あまり考えたこともありませんでした。戦争は、自分が思っているよりとてもこわくて、悲しいことでした。

一日目は、広島平和記念資料館に行きました。そこでは、焼けこげた服や、やけどをした人々の写真などを見ました。私たちがするようなちょっとしたやけどではなくて、体中やけどをしていました。一しゅんでやけどをしたり、焼けて人が死んでしまったりするぐらい原爆はおそろしい、というのが写真を通じて伝わってきました。今ではありえないけれど、昔にはとても悲しくて、ざんこくなことがあったんだなと思いました。

次に、被爆体験者の話を聞きました。原爆のしょうげきは、なぐられるくらい痛くて、爆発する前は、ピカッと光ったそうです。兵隊さんが、「水をください。」「水をください。」と言っていて、手の皮がめくれている人々もいたそうです。こんなことが、日本で起こっていたと思うと、とてもおそろしい気持ちになりました。

二日目は、原爆ドームに行きました。中を見てみると、がれきや石などで床がうめつくされていて、床が見えなくて今にもつぶれそうでした。原爆が当たったのに、今でも残っていて、すごいなぁと思いました。これからも、未来の人に、戦争のこわさやおそろしさを忘れないように原爆ドームを残していけたらいいなと思いました。

昼には広島のお好み焼き作り体験をしました。キャベツやもやしなどの野菜をたくさん入れて、初めてにしてはとても上手に焼けたと思います。大阪のお好み焼きとは少しちがってとてもおいしかったです。

この二日間で思った事は、原爆はとてもおそろしい物だし、戦争は絶対にやってはいけない事だと思います。日本は、他の国が核爆弾をつくっていても絶対につくってはいけないと思います。理由は、一回日本は核爆弾が落ちて苦しい思いをしているからです。なので日本は核爆弾をつくる側じゃなくて、他の国に苦しさや悲しさを教える側になってほしいです。こうする事で少しでも戦争をする国が無くなればいいと思います。そして、人が殺しあうことなく、幸せにくらせるように平和が続くことを願います。

原爆と広島

深谷小学校　6年
播　摩　太　一

「原爆」という言葉を聞くと、頭の中には、「広島」と「原爆ドーム」が思い浮かびます。しかし、ぼくは、その言葉を知っているだけであって、あまり、原爆についてくわしくありませんでした。

ぼくは、広島派遣団のことを友達にさそってもらって、参加しました。

バスで、広島平和記念公園の前を通った時、少しおどろい

たことがあります。それは、原爆ドームの周りには、豊かな自然と、きれいな川があったからです。周りも、もっとボロボロだと思っていました。

その後、平和記念資料館に行きました。そこで、戦争の怖さを知ることになりました。

「戦争」は、人々を苦しめるものだということを知りました。なぜかというと、一般人は、何も悪くないのに、空しゅうに苦しめられるし、男性は、兵隊にとられてしまい、命をかけてでも、外国と戦わされたからです。その時の一般人は、軍人に支配されていたそうです。今とは全くちがう生活をしていたことを知りました。

その後、被爆者の講話を聞きました。被爆者の方は、兄弟がいたそうですが、原爆を落とされた時に、亡くなられたそうです。その講話をしてくれた被爆者の方は、爆風で飛ばされ、頭を打ったそうです。血を流しながら、避難したそうです。原爆により、「放射能」も発生し、「放射能」によって、雨は黒くにごり、空からは、黒い雨が降りそそがれたそうです。「放射能」をあびたせいで、病気になった人もいたそうです。

次の日、広島平和記念公園に行きました。原爆の子の像に、折りづるをささげる時、ここで亡くなられた方が、いったいいくらいるのかと思うと、とても胸が痛みました。その後、原爆ドームを見ました。壁はボロボロで、中の地面はレンガだらけ、そして、骨組みの見えている部分もありました。今にも、くずれそうな状態で、まだ建ち続けているのでした。そのボロボロの原爆ドームは、「原爆」というものの恐ろしさを伝え続けているようでした。

今回の広島派遣団に行って、戦争は、二度としてはいけないものだと思いました。今のこの日本の平和を保ち、戦争の怖さを伝えていくということを大切に思うことで、この地球に、平和が広がるんだなと、ぼくは思いました。

広島で学んだこと

深谷小学校　6年
三崎　太一

ぼくが広島派遣団に申し込んだ理由は、本や授業などで戦争について書かれた物は、たくさん読んできたけれど、実際に現地へ行き自分の目で見たいと思ったからです。

まず平和記念資料館を見学しました。ふつうのビンと原子爆弾の熱でグニャグニャになったビンがあったり、八時十五分に止まった時計などがありました。ビンや時計などの形が一瞬で変形したり、こわれたりするほど、原子爆弾の威力はとても恐ろしいと思いました。

この原子爆弾の熱で皮ふが垂れ下がったり、はれあがったりして痛々しいやけどを負った姿の人たちの写真がありました。原子爆弾には放射能もあり、さっきまで元気だった人がいきなり血を吐いて死んでしまうという症状もあります。

ぼくが一番心に残っていることが二つあります。一つ目は、被爆者の話のときに、路面電車の手すりをつかんだまま死ん

でいる人がいたということです。ぼくはこの話を聞いたとき、とても恐ろしいと思いました。これは強い熱をあび、やけどで手すりにひっついたそうです。それほど強い熱だったのです。とてもかわいそうに思いました。

二つ目は「黒い雨」です。黒い雨とは空中にただよっている灰や、爆弾にふくまれる放射能やその他の有害物質が雨に溶けて雨が黒くなるので、黒い雨と呼ばれています。その雨が入った水を飲んだ人は死んでしまうほどおそろしい雨です。熱くてのどがカラカラなので、死ぬとわかっていても、飲んでしまうのです。悲しく、恐ろしく、助けたい気持ちになりました。広島の地形は爆弾の威力を測るにはいい地形だから、落とされたそうです。広島の次は長崎、長崎の次は京都が候補地だったそうです。よく、京都は文化財があって爆弾が落ちなかったと聞くけれど、実際はそうではなく、京都に落ちていてもおかしくなかったそうです。

ぼくは生き続けている被爆者の人は、本当に強い人たちだと思います。目の前でもう二度と見たくない光景を見て、生きる希望をなくしたことがあるかもしれないけれど、苦しみや悲しみを乗り越えて今を生きているからです。ぼくはこの人たちに強さを感じました。

ぼくは広島に行って本当に戦争は二度とくり返してはいけないなと思いました。たとえどんな事があっても、争うのではなく話し合いで解決したいです。そのためには、人の気持ちに寄りそうことのできる大人になりたいです。

広島を訪ねて

深谷小学校　6年
井ノ内　祐　矢

ぼくはなぜ広島派遣団に参加したかというと、三年前、姉が広島派遣団に参加して、とても良かったと、ぼくにも、参加することを勧められていたからです。ぼくも楽しみにしていました。ようやく六年生になり、派遣団に参加できることになりました。

また、今の日本ではありえない戦争のことや、七十二年前に広島に落とされた原爆のことについて知りたかったからです。

一日目は、資料館に行きました。資料館ではボロボロになった服や、ひふが焼けて、たれ下がった人などの写真や、原爆を落とされた後のビンの模型などがありました。

その後、被爆された方の話を聞きました。爆心地から約五百メートルの所は約三千度〜四千度ということや、原爆が落とされてから、広島には七十年間木や草が生えないと言われていたことを知りました。戦争は何も得られないということなどを一生懸命に語ってくれました。被爆された方の話をみんなに伝えなければいけないと思いました。

旅館に行くバスの中で、広島の町を見ると、木や草はおいしげり、原爆を落とされた所とは思えない町でした。七十二年前、広島では、一人さびしく、こどくに死んでいった人も

いるということが頭の中に出てきました。
一日目の夜、ミーティングでみんなが折ってきたつるを束ねて、世界の平和を願うメッセージを書きました。
そして、二日目は、様々な場所にある慰霊碑に行き、手を合わせ、花やつるをささげたりしました。慰霊碑の周りには、水が張ってあって、これは、火傷をしたときに水をもらえなくて、苦しみながら死んでいった人たちのためなのかなと思いました。そこには、原爆によって死んでしまった人たちなどの名前が記されており、石室の石面には、「安らかに眠ってください　過ちは繰返しませぬから」ときざみ込まれていました。
原爆ドームに着くと、今にもドーム全体がくずれてきそうで、原爆がどれほど危険なのか、そして、広島での悲劇を物語っているのがよくわかる所でした。ドームは爆心地から約五百メートルぐらいのところにあったのに、くずれなかったことは、とてもびっくりしました。
広島に行って、戦争や原爆の恐ろしさを改めて知りました。
絶対に、核兵器を使ったり、戦争をしない世界にしなければいけないと思いました。

初めて知った、原爆の恐ろしさ

深谷小学校　6年
大塚純星

ぼくが、この、広島派遣団に参加した理由は、原爆のことを全く知らなかったからです。あと、テレビでしか見たことがなかったので、実際に行って自分の目で見てみたかったからです。
バスに乗り五時間ぐらいして、ようやく着きました。初めて広島の街を見てびっくりしました。テレビでやっていたようなものの面影もないくらいでした。
初めに、資料館に行きました。まず、音声ガイドの話を聞きながら館内を回りました。日本人より外国の人の方が多くてびっくりしました。見学していると、知らなかった、原爆の恐ろしさが伝わってきました。爆発すれば一しゅんで多くの命が失われてしまうということや、もし、日本が降参していなければ、京都にも原爆が落ちていたかもしれない、そう思うと、とても怖いし、最悪だと思いました。
二日目は、原爆ドームに行きました。原爆が落ちて、ほとんど元の形と違いましたが、それでも、残っているというのはすごいと思いました。
そのあと、石碑に手を合わせました。手を合わせていると、「もう絶対に戦争をくり返してはならない」という思いが強く心に残りました。

そして、折りづるを吊るしているとき、こんなに多くの人々が折りづるを折っているということに、ぼくは、すごく感動しました。

そして、バスでまた五時間ほどかけて城陽に帰りました。

ぼくは、この二日間でとても多くのことを学びました。核兵器の恐ろしさや、何百人もの人が犠牲になり、そして、苦しみ、悲しんだということ、ぼくたちが、家に帰ってテレビを見たり、親と話したり、風呂に入ったりできるということは、とても幸せなことであり、かけがえのないことだと思いました。

ぼくは、広島で学んだことを他の人たちにも伝えていこうと思います。

広島で学んだ事

深谷小学校　6年
井上竜輔

七月二十七日と、七月二十八日の二日間、広島派遣団として、原爆について学びました。

二日間の間、学びに行ったのは、平和記念資料館と、広島平和記念公園と、追悼平和祈念館です。その他にも、昼食を食べたり、旅館にも行きました。

まず初めに、平和記念資料館（東館）に行きました。平和記念資料館では、原爆についての資料がたくさんあり、そのすべてが、細かく書かれていました。見た中では、原子爆弾の制作についてや、原爆落下についてや、水素爆弾についてや、核爆弾の情報流出についてなどの資料が、自分の中で、特に印象的でした。

他にも、原爆落下の再現映像や、被爆した生活品などがあって、原爆の怖さや、原爆の強さが、よくわかりました。機械で操作して、原爆について調べられるようにもなっていたり、説明を、英語に訳していたりしていたので、他国の人にも、現代の人にも、伝えようとしている事がわかります。それだけ伝えようとしているという事は、それだけ大きかった事なんだと思いました。

その次の資料館地下展示場には、被爆した物が、たくさんありました。一番印象的だったのが、八時十五分に止まった時計です。展示物を見ていると、意外と残っているな、とけていないな、と思っていました。でも、後から考えてみると、包まれている物や、爆心地からかなり遠い所にある物は、あまり負傷しなかったのだと思います。

次に、國分さんの話を聞きました。國分さんは、戦争のために、銃の扱いや、爆弾の投げ方などを教わり、練習したと聞きました。それに、食事は、生の人参や、大根だったそうです。さすがに、過酷すぎると、聞いていて思いました。もし自分なら、逃げ出していると思います。そんな過酷な生活をしながら、生きようとがんばった人を、とても尊敬します。

次に、原爆ドームに行きました。爆心地のほぼ真下だったとはいえ、予想以上に残っていて、びっくりしました。

次に追悼平和祈念館に行きました。追悼平和祈念館では、さまざまな資料や、原爆によって亡くなった人の情報などを調べたり、本で見る事ができます。それを使って、被爆者の講話や、原爆の爆発映像などを見ました。モノクロでしたが、怖さが十分伝わってきました。

原爆について、広島に学びに行って、原爆の怖さ、人体に与える影響などが、わかりました。その事をふまえたうえで、さまざまな人に、原爆について伝えていきたいと思います。

広島派遣団に参加して

寺田南小学校　6年
安　田　まどか

私がこの広島派遣団に参加しようと思ったのは、お姉ちゃんが去年参加して、とてもいい勉強になったと言っていたので、そのことをきっかけに、私も参加しようと思いました。

今回広島に行って、平和記念資料館の展示物を見ただけで、原爆がとてもおそろしいことを改めて感じました。

資料館で一番こわかったのは、ケロイドになった女性の写真です。もしも私があんな病気になったら、とてもこわいです。原爆で亡くなってしまった人たちには、大変失礼ですけど、今、私が住んでいる京都に原爆が落ちてこなくてよかったです。

私は、広島に着いた時、今、自分が立っている場所でたくさんの人たちがやけどをしたり、水や食べ物がなくて飢え死にした人がいたり、かみの毛がたくさん抜けた人、骨がすけて見える人、このようなたくさんの人たちが死んでいったんだと思いました。私はもう二度と、世界や日本に原爆が落ちてこないように、戦争が二度と起こらないようして欲しいです。

資料館で聞いた被爆者の方々の気持ちになることは出来ないけど、でも「想像」をすることはできます。想像するのは、こわくて、つらい。でも、実際に原爆を体験された人たちは、もっともっとつらくて、もっともっとこわいと思います。原爆はこわい、だからずっと心の底に閉じこめていたい人もいると思います。でも、原爆があった日を迎えると、心にしまっていた記憶がよみがえり、その日と同じこわさが戻ってくるんです。

まだ小さい人たちは、「戦争なんか関係ない、昔のことなんかどうでもいい」なんて思っている人がたくさんいると思います。それは、大きなまちがいです！昔、何百人、もっとたくさんの人が戦場に送られて、たくさんの人が死んだ。自分の住んでいる土地が敵に取られ、どれいにされ、逆らったら殺される、その様なたくさんの人たちの事は自分には関係ないと思っている人は、とてもおかしいです。

私たちの生活、おいしい物をたくさん食べて、ぐっすり寝れて、たくさん楽しく遊んで、いっぱい勉強する、今、当たり前の生活が原爆の日、原爆が落ちてきた次の日、その次の日、またその次の日、そんな生活が原爆によってうばわれま

した。だから原爆は、とてもこわいものなんです。私は、この世界で二度と戦争が起こらないで、今の様な平和な世界がいつまでも続くように願っています。

原爆が落ちたあの日

寺田南小学校　6年
高　田　萌　衣

私は、広島に着いて初めに、「とてもここに原爆が落ちたとは思えない。」明るい町だったので、そんなふうに思いました。

一日目は、資料館に行きました。たくさんの被爆者の写真や、展示物があり、とても悲しい気持ちになりました。午前八時十五分、広島に原爆が落ちた時、広島にいた人々は予想もしなかった事で、言葉では表せない、大変な気持ちになったと思います。

原爆が落ち、熱く燃えるような痛みで川に飛び込んだ人は、とてもたくさんいると聞きました。私は、そんな場面を想像し、ぞっとしました。水や、食べ物もなくなり、今の私達には考えられない出来事です。被爆者のお話によると、原爆が落ちてすごく強い光をあび、四千度にもなったそうです。四千度なんてもちろん経験したこともないし、考えたこともない、考えられない熱さです。そんな熱さを経験し、とても痛々しい思いをした人々はどんどん亡くなっていく、そんなことを考えると胸が痛みました。

原子爆弾、原爆投下の後には、黒い雨がふり、そのころの人々は黒い雨でも、「めぐみの雨だぁ、あびろー。」と言っていたそうです。黒い雨は、けむり、ちりやごみの混ざった雨です。小さい子どもたちは、おもしろがってあびていたそうです。その日、一九四五年八月六日は、とても天気がよかったそうです。午前八時十五分「ピカッ」と光り、「ドーン」という音がしました。そのころの被爆者たちは、原爆の事を「ピカドン」を言ったそうです。晴天だった空は、一気に変化し、たちまち黒いけむりでいっぱいになっていったそうです。被爆者のお話でたくさんのことが知れてよかったです。

二日目になり、原爆死没者慰霊碑の場所へいきました。私はそこで、願いました。「この先、ずっと世界が平和であるように。」きくのお花をささげました。とても悲しい気持ちでいっぱいでした。

その後、私たちが折った五十羽のつるを原爆の子の像にささげました。その原爆の子の像にもなっている禎子さんは病気が治るようにと、毎日つるを折っていたそうです。その当時はきれいな折り紙などほとんどなく、キャラメルのつつみ紙などで折っていました。でも、お母さんは、禎子さんが千羽折った所で、病気が治らなかった時の気持ちを考え、毎日一羽ずつ取り除いていたのだそうです。禎子さんの気持ちになると少しだけかわいそうですが、お母さんはとてもやさしい人だなと思いました。

次は原爆ドームに行きました。壁は壊れてガラスは無いし、

とても原爆の力はおそろしいと感じました。それでも残っているのですごいと思いました。爆心地にも行きました。爆心地とは全く思えなかったです。

私は毎日幸せに暮らせていますが、これからは願う様にしたいです。「二度と戦争が起きません様に、世界が平和でありますように。」

平和が一番

寺田南小学校　6年
山　室　心結姫

私は、広島原爆のおそろしさを知りました。人々は、「どんなにつらかったか」「どんなに苦しかったか」それを思うと心がもやもやとします。

私はこの広島派遣に参加して五つのことを学びました。

まず一つ目は、被爆者たちはいろいろと苦しんだことです。被爆者たちは、「水」もなく、「食べ物」もなく、どうすればいいかわからなくなり、そのまま死んでしまいました。

二つ目は、原子爆弾が落ちたら、人々は即死ということです。被爆者たちは、強い光をあびて「いたっ。」とも言わずに即死してしまったとのことです。爆心地から半径約三百メートルは、約三千度から四千度もあったと言われています。このことから私は、約三千度から四千度もあるということは、どれだけ熱かったか、被爆者たちは、どれだけつらい思いをしたのかと思いました。

三つ目は、被爆者たちはひどいやけどを負ったということです。私は平和記念資料館に行ったときに、やけどを負った人の写真を見たら心がすごく「ゾワッ」としました。大やけどを負った人々はどれほど痛かったかと思いました。他にも頭髪が抜けたり、火によって自転車や服、お弁当箱、おちゃわんなど、いろいろな物がこげたそうです。

四つ目は、「黒い雨」です。「黒い雨」は大きな粒の雨です。でも、被爆者たちは水がほしかったのです。体の中が熱くて熱くて水がほしかったのです。「黒い雨」とは、原爆の爆発直後、きのこ雲が立ち上って、泥やちりなどが上空にまき上げられました。そのちりやすすなどが放射能をあびており、空気中の水滴と混じり、雨粒となりました。これが「黒い雨」とよばれたのです。平和記念資料館で「黒い雨」の跡が残された壁を見ると、本当に黒くなっていました。

五つ目は、広島二中原爆慰霊碑です。これは、生徒約三百人もが亡くなりました。子どもから大人まで亡くなり、広島原爆で、約十四万人の人々が死亡しました。爆心地から一・二キロメートルでは、その日のうちに約五十パーセントの人が死亡しました。爆心地から近い地域では八十パーセントから百パーセントの人が死亡しました。多くの人々は即死や、建物の下じきとなりました。被爆者の体験によると、家族が建物の下じきになると、自分も死ねばと思い、涙がついあふれてきたと聞きました。他にも、赤い炎と青い炎が見えたと聞き、まわりを見るとめらめらと燃えていたそうです。しか

も、ぼうしをかぶったところは毛がなくなって、心臓あたりに刺されたような傷があったとのことです。

このことから私は、戦争など二度と起こってほしくないです。この二日間いろいろなことを学びました。「平和が一番。」

広島派遣団に参加して

青谷小学校　6年
小林　舞香

私が、広島派遣団に参加した理由は、広島に行った事がない事と、原爆について知りたいと思ったからです。私は原爆がおそろしい事は、テレビや本でしか知りませんでした。しかし、この二日間で原爆についてくわしく知る事ができました。

一日目に、平和記念資料館を見学しました。色々な物がさびていたり、とけていたり、こげていたりして使えなくなった物を見て、原爆のおそろしさを改めて知りました。印象に残っているのは、展示されている服、八時十五分に止まった時計、「水をくれ、水をくれ」と書いてある絵です。原爆が投下されて、水が欲しいと思う人がたくさんいた事を知りました。皮フがただれて水が欲しかった人は、川に飛びこんだそうです。原爆が落ちて、即死で亡くなった人、大けがをして亡くなった人、病気になって亡くなった人は、何千万人もいると聞きました。二度とこんな事があってはならないと思いました。

そして、被爆者講話を聞きました。原爆が投下されてから、どんな日を過ごしてきたかを、地図を使って話をしてくださいました。家族や家がどうなっていたかなどです。すごく悲しくなりました。

夜のミーティングでは、班ごとで、家で折ってきたつるを一つにまとめました。そして、平和への想いを込めたメッセージをリボンに書きました。

二日目は、広島平和記念公園、原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像に行きました。原爆死没者慰霊碑には花を、原爆の子の像には昨夜まとめた折りづるをささげました。爆心地は病院になっていました。原爆が投下される前の写真を見ると、原爆ドームの変わりはてた姿にショックを受けました。本当に、戦争は二度と起きてほしくないです。

今回、広島派遣団に参加して、原爆や戦争のおそろしさがこれまで以上によくわかりました。昔、日本で起こった事を学べた事は良かったと思います。

二日目のお昼の広島風お好み焼き体験は、いつも家で焼くお好み焼きとは違いました。自分で生地の上に具をのせて作って焼いたので、いつもよりとてもおいしかったです。

広島派遣団に参加して、色々な事を学び、体験できました。命の大切さ、食べ物や水の大切さを忘れてはいけないと思いました。

広島に行って

青谷小学校　6年
竹内菜乃

なぜ、私が広島に行こう、と思ったのかというと、一度、本当に原爆が落ちた広島を見てみたかったからです。

一日目は、広島に着いて、お昼ご飯を食べた後、平和記念資料館に行きました。本館は、工事中で見る事ができなかったけれど、見る事ができた所も、「うわ…。」と思う物や画像、写真がたくさんありました。例えば、黒こげになった弁当箱、体中やけどをした人の写真などです。私が見たかった、八時十五分で止まった時計、熱で曲がった三輪車は、どこにあるのか分からなかったけれど、他のたくさんの展示物を見て、原爆のおそろしさがとてもよく分かりました。

地下では、新着展示室を見て、被爆体験者の講話を聞きました。講話では、その時の様子、音、自分が思った事などをていねいに話して下さって、そこに私もいるような気がしました。

オバマ前大統領の折った折りづるもかざってありました。とてもきれいに折ってあったので、びっくりしました。オバマ前大統領は、自分の住んでる国が原爆を落としたけれど、平和について考え、来てくれたんだと思います。

二日目は、まず平和記念公園に行きました。原爆の子の像、慰霊碑、原爆ドームを見ました。原爆ドームは、思っていたよりも大きくて、補強用の鉄骨が何本も取り付けてありました。地面に落ちたがれきはそのままで、ドームの中もがれきだらけでした。

その後、もう一つの資料館に行きました。原爆などの本を読む所と、映像を見る所があって、私は映像を見ました。被爆した人達の思い、まわりの状況などを流していて、講話が映像になったようなものでした。見ていて、「こんなに大変な思いをしたんだな…。」と思いました。

お昼ご飯は、広島風お好み焼きでした。自分達で作りました。意外とかんたんだったし、大阪のお好み焼きよりおいしかったです。

今回広島に行って、色々な事を勉強できました。来年も行って、今回見る事ができなかった平和記念資料館の本館を見てみたい、と思いました。

広島に行って

青谷小学校　6年
音羽悠斗

ぼくが広島に着いたとき、本当に、広島に原爆が落ちたのだろうかと思うぐらい、にぎやかな所でした。

七十二年前、原爆が落とされたとは思えないぐらい、きれいな所でした。初めに、バスガイドさんから、こんなふうに、

原爆が落ちたんだよと教えてもらっていたけれど、行ってみると、予想とちがって、きれいな所でした。

始めに平和記念資料館に、行きました。そこには、ぼろぼろの三輪車や、いろいろな説明が、数えられないほどありました。その後、地下の展示場に行きました。被爆者の國分さんに、話を聞きました。原爆一つでいっしゅんにしてたくさんの人の命がうばわれた、ということを聞くと、目から、涙が出てきそうになりました。メモをするひまもなく、涙が出てきそうになってきました。國分さんの話を聞いていると、その様子が頭にうかんできて、だんだんこわくなってきました。國分さんは、十六才で家族を失い、今まで苦労して生きて来たんだなということが分かりました。

その後、旅館へ行き、風呂に入り、夕食を食べ、ミーティングをしました。そこでは、班のみんなで作って来た五十羽のつるを束ねて、みんなの思いを書きました。

二日目、旅館を出てから、原爆ドームや、原爆が落ちた爆心地を見に行きました。ぼくは、爆心地が病院ということにおどろきました。その後、班でまとめた折りづるをささげに行きました。次に、原爆ドームを見に行きました。ぼくは、もっとつぶれているだろうと思っていたけれど、けっこう残っていて、外国の人もたくさんいて、すごいなと思いました。

ぼくは、広島に行って、もう二度と戦争を起こしてはいけないということが分かりました。

広島に行って分かったこと

青谷小学校　6年
山本　煌太朗

ぼくは、広島派遣団に参加して、バスの中で、バスガイドさんの話で、原爆を落とされて、熱くていっしゅんで人が焼け死んだと聞いて、本当に原爆はだめなものだと分かりました。

広島に着くと、原爆が落ちた町なんだと分かりませんでした。なぜなら、広島に着いても、とてもきれいな町だったからです。

資料館の奥のほうへ入って行くと原爆が上で爆発したところなどが今も残されて、ほとんどつぶれていて本当に原爆はだめなものなのが分かりました。

最初は、一機の戦闘機だけで、原爆は広く爆発するのが分かりました。

多くの人が死に、いっしゅんで人が燃えたのが分かりました。

戦争は多く起きているけど、楽しいものではなく、一生やってはいけないものなのが分かりました。

何かの下じきになったり、いっしゅんで燃えたり、多くの人が原爆によって亡くなられたのが分かりました。

たった一つの爆弾で、こんなになるのが見て分かりました。

でも、広島風お好み焼きなど、しあわせになっているのが

分かりました。工場などに人がいて、工場はぼろぼろなのにすごいと思いました。

家などで被爆された人は、しあわせだったのにいっしゅんにして死んでかわいそうだと思いました。

今、生活しているのはしあわせで、ごはんもあるから、本当にしあわせな暮らしだと分かりました。

戦争があるならば、絶対にしないことを守るのが一番だと思いました。本当にいっしゅんで多くの人が亡くなられてかわいそうだと思いました。

広島で学んだこと

青谷小学校　6年
中田　圭哉

ぼくが、平和のための小中学生広島派遣団に参加しようと思ったきっかけは、五年生の時にはまっていた「はだしのゲン」という本を読み、広島について知りたくなったからです。

はじめに、広島平和記念資料館に行きました。たくさんの展示物や資料からは、原爆のひどさや戦争のこわさが分かりました。そして資料館の展示物の中で一番心に残った物はピカドンで焼けこげた三輪車です。なぜかというと、きっと小さい子どもが三輪車に乗っている時にピカドンが来て、爆風で飛ばされて亡くなったと思うと心がぐっときます。

次に気になっていた被爆者の國分良徳さんに被爆の話を聞きました。國分さんは小学生の時に、爆心地から約三・五キロメートル離れた所で被爆されました。國分さんは奇跡的に無事でした。しかしお母さんは亡くなられていました。お父さんと妹は生きていました。しかし妹は大ケガをしていました。もちろん妹は大ケガをしているので、國分さんがせおって、お父さんはころがっていたやかんを手に持ち、水を入れて持ち歩きました。しかし道が熱くて歩けなかったので、布を足にまき、きゅうけい所まで行きました。そこには高熱で皮ふがとけてドロドロになっていた人たちが「水をくれ～水をくれ～」と言っていたので、その人たちに水をあげると「ありがとう」と、言ったそうです。

次に原爆ドームについて書きます。原爆ドームは原爆が落ちた当時のまま残っていたから、原爆のひどさやこわさが分かりました。中にいた人たちは、とっても苦しみ悲しんだのだろうと思いました。

最後に広島焼きについて書きます。作り方は、最初に生地をうすく円形にのばし、魚の粉をかけ、その上にたっぷりのキャベツを乗せ、さらにその上にもやしを乗せ少し待ち、ひっくり返し焼きます。その間にめんを円形に広げ焼き、その上にキャベツともやしが乗った生地を置き焼きます。そして卵を割り黄味をつぶし広げ、その上に焼いていた生地を乗せ焼き、ひっくり返し、ソースをぬれば完成です。

このようにぼくは、命は何よりも大切な事が分かりました。これからも戦争が無くて、平和な国になるように祈ります。

広島で学んだこと

青谷小学校　6年
中島　百

二日間広島で、戦争の最も大きな被害を受け、多くの人々が亡くなり、本当に悲しい事があったという事がわかりました。

一日目、私の心に残った事は、平和記念資料館の見学や、被爆体験者の講話を聞いた事です。平和記念資料館では、焼けた服や時間の止まったままの時計などさまざまな物が展示されていました。原子爆弾が落とされた付近にいた方々は、「熱い」と思わないうちに亡くなったけれど、すごく熱い温度で燃えたと思います。今、私たちがくらしている日常で夏の三十度をこえて「暑い」といっているけれど、実際に原子爆弾が落とされた地域では、今とは比べられないくらいの熱さだったと思います。被爆体験者の講話では、家族が亡くなったというお話を聞いたり「黒い雨」についても聞きました。戦時中はご飯もなくつらい生活をおくっていた事もわかりました。やっと米類のご飯を食べられたときは、すごくみんなもよろこんでいたと思います。戦時中は本当に大変なくらしをしていた事が改めてよくわかりました。

二日目には、原爆の子の像に折りづるをささげました。ほかにもたくさんのつるがささげてありました。

原爆ドームでは、燃えて、大きな被害を受け、たくさんの人が亡くなった事を知る体験をしました。爆心地を見たとき、今はきれいに建っていたけれど、当時は大変な被害を受けたと思います。病気にもかかる人がいて、大変な思いをしたと思います。

最後に広島風のお好み焼きを作りに行きました。広島のお好み焼きはいつも食べているお好み焼きとはちがい焼きそばものせて食べました。そして自分でお好み焼きを作る体験をさせてもらいました。

私は、広島に原子爆弾が落とされ多くの被害を受け、大変な目にあったということを知り、色々な体験ができました。多くの被害を受けた事により、戦時中は食べ物も無くなり様々な被害が出たということがわかりました。戦争を知らない人たちにくわしく知ってもらえるように私も伝えていきたいと思います。

広島に落ちた原爆のおそろしさ

青谷小学校　6年
井上　翔太

ぼくがなぜ広島に行ってみたかというと、広島に落ちた原爆のおそろしさを知りたかったからです。

広島に着くと、想像もつかない景色でした。ビルや建物がたくさん建てられていて、長年生えないと言われていた植物

もたくさん生えていて、想像よりもはるかにすごい景色でした。

平和記念資料館に行き、原爆のおそろしさを伝える映像を見ると、原爆はあっという間に町、人々をおそっていました。しかも、その熱さが約三千度〜四千度の熱さだったそうです。それを知ると、心が悲しくなり、広島の人たちや、この原爆の中をたえた人はこんな悲しいことがあり、かわいそうだと思う気持ちでいっぱいでした。その原爆は、地上六百メートルから四十三秒間のあいだに落ちたそうです。

広島に行ってみて、原爆っておそろしいんだと分かりました。それに原爆でたくさんの人々が亡くなったから、戦争もだめだということが分かりました。戦争のない国を作っていけばいいということが分かりました。

広島に行って

青谷小学校　6年
北村　紗歩菜

私が、なぜ広島派遣団に参加したかというと、前に一度、広島に行きましたが、そのときはまだ小さかったのであまり記憶に残ってなく、改めて知りたいと思ったからです。

私は、広島を訪ねて、想像以上に、原爆がおそろしいことが分かりました。戦争を知らない私たちが今回の広島派遣団に参加することで知り、それを小さな子にも教えてあげようと思いました。

今の広島は、本当に原爆が落とされたのかと言いたくなるぐらい、大きなビルや、人々の活気であふれていました。

資料館を訪れました。資料館には、原爆が落とされた日、「八月六日」の物がそのまま残されており、私がこの時代にいたら、どうなっていただろうか、そんな想像をしながら見ていました。音声案内もあったため、とても分かりやすく、学べました。

地下展示場に行きました。原爆の熱でとけた硬貨や、ガラスのびんなどがありました。そんな物がとけるほど熱いなんて、すごくおどろきました。あと、八時十五分で止まっている、時計がありました。その時計を見て爆破の刺激で止まったんだと思いました。

佐々木禎子さんのことが書いてあるパネルを見て、急に白血病なんて、なぜだろうと思いました。つるを、千三百羽以上折り続けていたなんてすごいと思いました。

被爆を体験した方の話を聞きました。「原爆で祖母は見つからず、母と弟は即死だった、妹は、爆心地から、三・一キロメートルもはなれた町にいた。けれど夜中に亡くなっていた。」そのほか、いろいろと話してくれました。

二日目は、原爆ドームと、慰霊碑、原爆の子の像の所に行きました。

原爆死没者慰霊碑には、いろいろな国から来られている方々がいました。花がいっぱいかざられており、その周りをそうじされている方もいました。班のみんなで、花をささげ、

一礼しました。

次に、原爆ドームを見ました。激しい戦争の中、こんなに形が残っているなんて奇跡だと思いました。原爆の子の像のところに行くと、つるが数え切れないほどあり、つるで「平和」という文字を作った物などがあり、みんなすごいと思いました。前日に、班のみんなで書いた平和への思いを込めたメッセージをささげました。慰霊碑の前で、手を合わせ一礼をしました。

昼ごはんには、広島風お好み焼きを食べました。初めてにしては、うまくできました。

今回の広島派遣に参加して、とてもいい経験、思い出が出きました。このことを活かして、今回行かなかった人、小さな子にも原爆、戦争のおそろしさを伝えたいです。

他の学校の人たちとも仲良くなれたし、夏休みのいい思い出ができました。

戦争の悲惨さと原爆のおそろしさ

青谷小学校　6年
望　月　優　嗣

ぼくがなぜ広島へ行こうと思ったかというと、戦争を経験したことがなく、もっと戦争について知りたいと思ったからです。

バスに乗り約五時間、やっと広島に着きました。そこで不思議に思ったのは、緑がたくさんあり、人がたくさんいたことです。なぜなら「原爆が落ちて、七十五年間は、草木も生えず、人も住めないだろう。」と言われてきたこの町に、草や木が生え、きれいな川も流れ、人がたくさんいるからです。

はじめに、平和記念資料館に行きました。館内には、焼け焦げた三輪車や、ボロボロになった服などが展示されていました。また、その物から、戦争の悲惨さを感じさせられました。

見学した後は、被爆者講話を聞きました。講話を聞き、「がんばって生きよう。」という思いがすごく伝わってきました。

二日目は、まず、原爆死没者慰霊碑に花を捧げました。そこには、「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから。」と書いてありました。バスガイドさんの説明によると、外国の方から「〝過ちは繰返しませぬから。〟という文は、おかしいのではないでしょうか。だって、〝過ち〟というのはアメリカがした過ちで、日本が言うことではないのではありませんか。」と言われたそうです。でも、その文を考えた人は、「〝過ち〟は、アメリカだけでなく、世界がした過ちという意味なんですよ。」と答えられたそうです。ぼくはそのことを聞くと、「確かに過ちはみんなの責任ということだなあ。」と思い納得しました。

広島二中原爆慰霊碑に手を合わせた後、原爆の子の像に、家で心をこめて折った五十羽の折り鶴をたばねて、リボンに「みんなが幸せで、ずっと平和が続きますように」と書いたものを捧げました。ぼくたちが捧げた折り鶴の他にも、たくさんの折り鶴がありました。その中には、「平和」という文

字にしている折り鶴や、折り鶴で絵を書いている様なものも、たくさんありました。

次に、原爆ドームを見ました。中はボロボロで何もなく、茶色のレンガが建物の形になっているだけでした。そのことから、原爆のこわさはすごく分かりました。また、地震などでくずれないように、何度も補強されていることから、それほど今後も残していかなくてはいけないくらい大切な物なんだなあと思いました。

広島へ行って、ぼくは、戦争の悲惨さと、原爆のおそろしさがよく分かりました。また、戦争というものは、世の中を変えてしまうもので、二度と起こしてはいけないなあと思いました。

今回は「平和のための小中学生広島派遣団」に参加してよかったです。とても良い経験になりました。

広島で学んだ二日間

青谷小学校　6年
雨宮　凛

私は、広島派遣に参加して、戦争のおそろしさを学ぶことが出来ました。広島に着くと本当に広島に原爆が落ちたのかと疑うくらい、自然がいっぱいのきれいな所でした。

資料館に着くと、今にもつぶれそうな三輪車やボロボロになった服、特に印象に残ったのは八時十五分でとまった時計です。爆弾が落ちたのは八時十五分です。落ちてすぐ時計が止まるほどおそろしい爆弾だったのだと思いました。

歩いて行くと、人がたくさん集まった所がありました。のぞいて見ると、そこにはプロジェクションマッピングで表した広島の映像がありました。最初は緑豊かな広島だったけど爆弾が落ちてきて真っ黒になり、緑豊かだった広島がうそみたいな光景になりました。この爆弾だけでどれほどの人が亡くなり傷ついたのかを考えるだけで、足がふるえて悲しい気持ちになります。

爆弾が落ちた時、空から、紙きれ、布きれ、焼けこげた木片、黒い雨が降ってきたそうです。それを聞いた瞬間、私は複雑な気持ちになりました。この話を聞くまでは、大雨などが一番いやだと思っていたけれど、こんな物が降ってきて、けがをする人は何人いるんだろうと思うと申し訳なく感じます。

旅館に着いてミーティングをし、班のみんなでつるを束ねました。

二日目に、束ねたつるをかざりに行きました。そこには、つるで平和と書いてあったり、花を作ったりといろいろなつるを見ました。

次にドームに行きました。どの角度から見てもドームはボロボロでした。鉄などは錆びていて、細かな石や大きいれんがなどがいっぱいあって、とてもおそろしく悲しい様子でした。

私は広島に行って、さまざまなことを学ぶことができました。戦争中のつらさや、その一日であんなに変わった広島を

知ることが出来て良かったです。もう二度と戦争はしてはいけない、平和が一番ということを知ることが出来たので、広島派遣団に参加して良かったです。

広島を訪ねて

青谷小学校　6年
圖子　惟月

ぼくが、どうして広島派遣団に参加したかと言うと、広島で何があったのかを、知りたかったからです。

一日目に、平和記念資料館へ見学に行きました。平和記念資料館を見学した時に見た物は、焼けた服や、中身が炭になっていた弁当箱などです。その弁当箱には穴があいていました。ぼくは、それを見たくなかったですが、広島では、こんなことがあったということなので、こらえながら見ていました。

ぼくが、一番おどろいたことは、地上六百mから原爆が落ちたことです。四十三秒ぐらいの間、落ちていたそうです。温度は、約三千から四千度だと分かりました。それを聞くと、なぜか急に、悲しくなりました。このことで、なぜ、この戦争で多くの人が亡くなったのか、そして、原爆の怖さを知りました。音声ガイドで、黒い雨などの話を聞くと、だんだん怖くなってきました。

次に、被爆体験者の話を、聞きました。被爆された人に、話をしてもらいました。被爆された人の話を聞いていると、だんだん怖くなってきました。被爆された人は、とても苦労して、生きのびたんだなぁと思いました。ぼくは、今の時代に生まれてきて本当に幸せだなぁと思いました。

そのあと、旅館に行きました。最初はグループ別にお風呂に入る予定でしたが、男子みんなで一緒に入ることになりました。ものすごく楽しかったです。夜ご飯には肉などが出てきて、ものすごくおいしかったです。

そのあと、ミーティングがありました。ミーティングでは、つる五十羽を行動班のメンバーでつなげて、平和になることを願い、メッセージを書きました。そして、寝る部屋では、みんなでトランプや、ＵＮＯをしました。

二日目は、平和記念公園に行って、つるをささげました。

その後、原爆ドームを見て、ものすごくびっくりしました。原爆が落ちたのに、物が残っていたり、人がいるのがすごいと思いました。その辺りには、外国人がとても多かったです。

広島に行って、辛いことなどを知りました。これからは、戦争はしてはいけないと、思いました。一つ一つの命を、大切にしていくことが大事だとわかりました。

広島派遣団に参加して良かったです。

広島に行って印象に残った五つの事

西城陽中学校　1年
宗　戸　琴　葉

八月六日、広島に原爆が投下されました。私は、広島派遣団員として広島に行くまで、原爆の事について、全然知りませんでした。小学校では、原爆が投下された日付や場所くらいしか学習していませんでした。しかし、資料館で見て聞いた事は、私の知らない事が数えきれないほどありました。その中で、私は五つ印象に残っている事があります。

一つ目は、広島に原爆が投下された理由が、面積などで決められたという事です。考えてみれば、なぜ広島に原爆を投下したのか疑問に思います。しかし、どんな理由があっても、原爆を投下してはいけないと思います。

二つ目は、アメリカは原爆を使用する事によるメリットを考えたという事です。アメリカは、原爆を投下する事で戦争を終結させ、ソ連の勢力拡大も抑えられるので、膨大な経費を使った原爆開発をアメリカ国内向けに正当化できると考え日本を利用したようで、とても悲しく思いました。

三つ目は、広島と長崎で投下された原爆の種類がちがうという事です。とてもおどろきました。まず、原爆に種類がある事におどろきました。この世に原爆が何個もあると考えると、とても怖いです。

四つ目は、原爆が投下された月日があまり遠い昔の事ではないという事です。広島に原爆が投下された日は、七十二年前の八月六日です。私のおばあちゃんは、満七十三歳と満七十四歳です。原爆が投下された日に一、二歳、そう考えると全然昔の事には思えません。小学校や、周りの人などから話を聞くと、随分昔に原爆が投下されたように聞こえます。でも、考えてみれば、そんなに昔に原爆が投下されたわけではないと思いました。

原爆が投下された広島は、高速道路を使えば、城陽市から休憩を挟んでも、約六時間で着きます。意外と近いなと私は思いました。

五つ目は、被爆者の写真です。これが一番印象に残っています。見ていて、悲しく、切なかったです。被爆者の写真を見ていると、より一層原爆が怖く恐ろしいものだと思いました。

私は、広島派遣団員として広島に行き、戦争と原爆の悲惨さや恐ろしさを実感しました。自分は、原爆を見ても、被爆も、家族のいなくなる悲しみも、道が死体だらけな状況も味わっていないのに、資料館に行くと、自分が味わっているような悲しい気持ちになりました。沢山の人の尊い命を一瞬にして奪う原爆を私は許せません。戦争がない地球に、平和な地球になってほしいです。

広島で学んだこと

西城陽中学校　1年
増田百香

私が広島派遣団に参加した理由は、日頃から戦争は絶対にしてはいけないとは思っていたけれど、戦争や原爆がどれだけ恐ろしいものなのか、日本にどのような影響を与えたのか、自分で実際に広島へ見学しに行き、くわしく知りたかったからです。

今回、初めて広島を訪れましたが、現在の広島の姿を見てびっくりしました。なぜなら原爆が落ちたとは思えないほど、発展したきれいな町になっていたからです。七十二年前、あのような恐ろしい出来事が起きた場所だなんて、信じられませんでした。

一日目は、広島平和記念資料館を見学した後、被爆者から話を聞きました。資料館では、八時十五分で止まった時計や、ボロボロになり血の染みがついた服など、どれも目を伏せたくなるようなものばかりが展示されていました。その中でも、私の心に一番残っているのは、人間かどうかも分からないくらいに全身に火傷を負った人々の写真です。私は改めて原爆の恐ろしさ、戦争への怒りを強く感じました。他に、初めて知ったことは、原爆が落ちた後、助かった人々を襲った急性障害や後障害の事です。原爆とは、落ちた後も、長年に渡って人々を苦しめることを知りました。

被爆者の方は、原爆が落とされた時の様子や大切な家族を失った話、残された家族で助けあった話、放射能を含んだ黒い雨が急に降ってきた話など、生々しい当時の様子をくわしく教えて下さいました。被爆者の方の話を、当時の様子を頭に浮かべながら聞いていましたが、私だったらきっと現実を受け止められなかったと思います。

二日目は原爆ドームの見学に行きました。原爆ドームは世界遺産にもなっていて、よくテレビなどで見ますが、原爆ドーム全体を間近で見て、まるでこの場所だけが時が止まっているように感じました。広島市の建物の九十％以上が焼失または破壊された中、よく残っていてくれたなと思いました。この日も沢山の外国人観光客が訪れていました。

今回、実際に広島へ行き、戦争は、絶対にしてはいけないと思いました。今、私達は平和に暮らしていますが、七十二年前にあった恐ろしい出来事を忘れてはいけません。戦争を知らない私達若い世代は、この事実に関心を持って、知る努力をするべきです。一人でも多くの人が広島を訪れて、原爆の恐ろしさを知る事が大切だと思いますので、私の弟やまだ広島へ訪れた事のない友達に、広島派遣団への参加を勧めたいと思います。

衝撃的だった二日間

西城陽中学校　1年
山本　真央

私は友達から広島派遣団のことを聞いて、広島に行ったことがなかったし、昔、戦争中に広島に原子爆弾が落とされたということについて知りたいと思ったので、友達と一緒に参加することに決めました。

私は広島に入った時少し驚きました。昔、広島に本当に原子爆弾が落ちたのかがわからないくらい、きれいなところでした。しかし資料館に入ると、目を疑うほど怖い光景がたくさん待っていました。

展示してあるものには「八時十五分」に止まった時計やボロボロになった制服などがありました。その中でも一番印象的だったのは写真です。手足にやけどをした子どもが手足を上げながら寝ころんでいる写真がありました。説明文を読むと、手足を床に着けると痛いから手足を上げていたと書いてあり、その子がどれだけ苦しかったか、と思いました。このような写真や時計などの展示物を通して改めて原子爆弾の怖さを知りました。

被爆者の人に話を聞きました。その話の中で特に印象に残ったことは「亡くなった母と弟を置いて自分の父と逃げました」というところです。自分の家族を置いていくのはとても辛かったし、悲しかっただろうなと思い、自分も悲しい気持ちになりました。

次に原爆ドームと、原爆によって亡くなった人などに花を捧げに平和記念公園に行きました。原爆ドームは爆心地に近いのに、私が思っていた以上にきれいに残っていて驚きました。でも当時、原爆ドームの中にいた人は即死だったとガイドさんが言っていました。即死の理由は放射能のせいだったと聞いたので、とても恐ろしいものだと思うようになりました。

原爆によって亡くなった人たちの慰霊碑に花を捧げました。原爆によって一瞬にして赤ちゃんから老人までたくさんの人々が亡くなりました。だからこのような戦争は二度と起こしてはいけないし、原爆をなくさなければいけないなと改めて思いました。

原爆の子の像に千羽鶴を捧げに行った時、その像の周りには、たくさんの千羽鶴がありました。鶴の分だけ原爆の子を思う気持ちがあるのだろうなと思いました。

私はこの二日間でいろんなことを学びました。その中でも一番大切なことは「二度と戦争を起こさないこと」だと思います。たった一つの原子爆弾でたくさんの人々が亡くなり、さらに、何年も経ってから放射能の影響で、病気になって亡くなるなど、何十年もの間、苦しんできました。そんなことが今後二度と起きないように、日本だけでなく、世界中に原子爆弾が落ちなくなる平和な世界を作ろうと、広島に行って思うようになりました。

二日間広島に行って

西城陽中学校　1年
三　宅　由　華

私は、広島派遣団に参加して色々な事を学びました。

広島に着いたら、城陽市より大きい建物がたくさん建っていました。このようなきれいな所に原爆が落とされたと思えないほど、すごく良い所でした。

一日目は、平和記念資料館に行ってきました。音声ガイドを聞きながら、展示されている焼けてボロボロになった三輪車や服、八時十五分で止まっているいくつかの懐中時計を見ました。この八時十五分に原爆が落とされ十四万人もの命が失われてしまいました。私は見ているだけでとても怖く、恐ろしく感じました。

地下の資料館に行くと、原爆が落とされた時の絵などが展示されていました。その絵は、見ているだけでも本当に悲しい気持ちになりました。

そして、被爆体験者からお話を聞きました。実際に原爆が落とされた時のお話を聞いていると、とても恐ろしくなり、メモがなかなか書けませんでした。小学校六年生で習った、第二次世界大戦や原爆のことが少しだけ出てきて、改めて原爆など戦争は怖いものなんだと思いました。

二日目は、平和記念公園に行き、慰霊碑に花を捧げました。原爆の子の像には折りづるを捧げました。そこには、他にもたくさんの折りづるがかざってありました。

その後、原爆ドームを見に行きました。原爆ドームは、今にもつぶれそうでボロボロでした。爆心地からは近いのに、まだ残っていたのはすごいことだと思いました。

昼食では、広島風お好み焼きを自分で作って食べました。はじめは、ひっくり返すのが大変だったけど、何回かやってるうちにやり方を分かってできるようになりました。作るのは少し難しかったけど、おいしくできました。

この広島派遣団に参加して、平和記念資料館や地下の資料館はとても怖かったけど、原爆がどのようなものかを知ることができました。友達と遊んだり、家族と毎日過ごせていることがどれだけ幸せなのかがよくわかりました。戦争をすると、大切な人や楽しく過ごしている毎日がすべて失われます。だから、戦争は絶対にしてはいけないことだと思いました。

広島派遣団に参加して

南城陽中学校　1年
南　村　心　羽

僕は、今まで戦争や原爆については、夏休みの宿題で少し学習するくらいで深く考えることは、あまりなかったと思います。今回、広島派遣団に参加して、色々なことを感じ、考えました。

記念資料館では、産まれてすぐに亡くなる子や、０歳で亡くなる子がいたこと、全身やけどを負った人が沢山いたことを、知りました。僕は今まで、大きな怪我や事故をすることもなく、学校へ行き、勉強やクラブ活動をして、毎日を過ごすことが出来ていることに、感謝しなければならないと感じました。

原爆ドームは、想像していた以上に迫力がありました。そして原爆を受ける前の写真を見て、原爆を受けたドームは半分が崩れていることを知り、原爆の威力の大きさに怖くなりました。原爆は怖い、使ってはいけないとテレビを見て言葉では聞いていましたが、実際に写真やドームを見て、沢山の人や建物が犠牲になることを知って、本当に原爆は使うものではないし、使ってはいけないものだと感じました。

実際に原爆を体験した人の話を聞いて、かわいそうだと一番に思いました。本当ならば、お父さん、お母さんから産まれて沢山の愛情をうけ、学校へ行き、勉強したり友達と遊んだり出来ることが、出来なかったと思うと、かわいそうだと思いました。もっと一緒に家族で過ごすことや、楽しいことや悲しいことなど、沢山のことを経験したかっただろうなと思います。そして、その辛く苦しい中で凄く頑張ったなと思います。命を落とした人も多く、でもその中で命を落とさずに生き抜いた人も多くいて、どの人々も頑張って生きたと思います。今でも五万人の名前が不明となっていることもニュースで知って、まだ悲しみの中にいる家族の人もいるかもしれないと思い、早く悲しみの中から出ることができたらいいなと思います。

今回、広島派遣団に参加して、僕自身も今まで知らなかったことを知ったり、見たり、聞いたりして色々と感じたり考えたりするきっかけになりました。学校に行き勉強したり、友達と遊んだりクラブ活動をしたり、毎日を楽しく過ごせていることに感謝しなければならないと思いました。そして、戦争時代を生き抜いた人たちの思いも忘れず、その人たちがいたから、今こうして平和に暮らすことが出来ているということも忘れてはいけないと思いました。これから、何気ない日々にも感謝し、一日一日を大切にしていこうと思います。参加させてもらい、ありがとうございました。

広島に行って学んだこと

南城陽中学校　１年
内田　匠海

僕は広島派遣団として広島に行き、原爆の恐ろしさや戦争の怖さをよく知れる機会になりました。資料館で、服がぼろぼろになっている光景を表した資料を見て、僕は今の広島と比べると全く違うなと感じました。また、バスガイドの人が戦争について、アメリカは広島には緑が一生広がらないと考えていると語っている時に、僕は、今の広島に緑が多く平和だと思いました。

僕たちは、初めに、平和記念資料館に行きました。そこに

は、様々な展示品や展示資料があり、原爆の投下前の広島と投下後の広島の様子がよく分かりました。また、焼け尽きた三輪車を見て、僕はこの頃の子どもたちはかわいそうだと感じさせられました。さらに僕が一番驚いたことは、原爆の温度です。その温度は三千度～四千度とのことです。それを知った僕は、原爆はとても恐ろしい物と感じたと共に、身近では考える事のできないほどの物なんだなと感じました。

二日目は、慰霊碑に花を捧げに行き、原爆の子の像の周りには、ものすごい量の折りづるがありました。原爆ドームにも行きました。僕は写真で見るよりもすごく迫力があり、あれほどの建物でもボロボロになっていたから、より原爆の恐ろしさを知ることができました。

次に追悼平和祈念館に行きました。僕は、原爆によって家族を失っている人の映像を一時間ずっと見ていて、戦争で亡くなった人、またやけどを負っている人の姿を見て僕は悲しくなりました。

とても勉強になった時間でしたが最後には楽しい広島風のお好み焼き作り体験をしました。お好み焼きの食感というより麺の食感の方が勝っていて、お好み焼きを食べているより麺を食べている感じがありました。

僕は、今回の広島派遣団に参加して学び、知らなかった事を沢山知れた機会になりました。今回の学びから、原爆は恐ろしく、身体だけではなく心にも傷が残る事が分かり、戦争はとても怖いもので、これから先も二度と起きてはいけない事と感じることができました。この戦争の事や原爆の事を、これから先の人に僕たちが伝えられるようにしていきたいと思いました。

広島に行って

南城陽中学校　1年
福　井　健　二

ぼくが広島派遣団に参加したきっかけは、お母さんに、戦争について学べるし、貴重な体験ができると勧められたからです。

僕は、広島のことはあまり知らずに行きました。あまり栄えていないだろう、と思いながらバスで広島に向かいました。広島に着いて町を走っていると、自分が思っているより栄えていました。とても原爆が落とされた町だと思えませんでした。

まず最初に、平和記念資料館に行きました。いろいろな展示品や資料から、その当時の建物や、人の様子がよく分かりました。

次に、被爆した方から話を聞きました。被爆した時の町の様子を聞けて、大変貴重な体験ができました。

二日目、原爆死没者慰霊碑に行きました。みんなで花を持って写真を撮ったり、花を捧げたりしました。

次に、広島二中原爆慰霊碑に行き、班ごとに慰霊碑にお参りをして、その後に原爆の子の像に行きました。展示ケース

の中に数えきれないほどの鶴がありました。みんなで折った鶴を展示ケースの中に捧げました。

そして、原爆ドームに行き、バスガイドさんの話を聞きながら歩いて、原爆ドームを見て回りました。原爆ドームの横の川は太田川といって、原爆が落とされた時にひどいやけどをした人が水を求めて太田川に飛びこんだそうです。それを聞いた時は胸が苦しかったです。その後、爆心地を歩いて見て回りました。歩いているといろんな所に、爆発した時の様子について書かれた看板もあって当時の事がよく知れました。

次に、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。パソコンを使って被爆体験などを調べられる所があり、調べてみると、被爆した時は生きていても、後から放射能の影響により苦しんで死んでいった人もいました。

それから、広島のお好み焼きを作りに行きました。お好み焼きをひっくり返す所が難しく、うまくいかなかったけど、おいしく食べられたので良かったです。

広島派遣団に参加して、原爆の怖さ、平和がどれだけ大切かを学べました。自分が今、友達と遊べているのも幸せなんだなぁと思いました。

広島に行って

東城陽中学校　２年
岡本虹夏

戦争と聞くと、学校で習ったこと以外のことは思いつきませんでした。私達、小・中学生は、実際に戦争を経験された人に話を聞かせていただける機会もめったになく、知識がとても少なかったです。ですが、今回広島派遣団に参加することで、戦争についてや、その時の日本について、以前よりも深く考えることができました。

一日目は資料館へ行きました。生々しい写真。血がにじんだ手帳。ボロボロの服。今の日本では想像もつかないほどの物がたくさん展示されていました。一つ一つの展示品に説明のようなものがついていました。どこに住んでいたか、どんなくらしをしていたか、どんな子だったか、何歳だったか。とてもくわしく書いてあり、それが、よりいっそう恐怖を大きくしました。実際に、昔、このようなことがあったのだと、訴えているようでした。目をつむりたくなるようなものばかりで、その事実を受けとめるのがとても苦しかったです。ですが、受けとめなくてはならない、このことをたくさんの人に知ってもらいたいと思い、深く心に残すよう努力しました。

二日目は、原爆ドームを見に行きました。写真では見られない、中の様子がよく見えました。くずれたレンガがそのまま残っており、当時はどんな建物もこんなふうになっていた

のだろうなと考えていました。折りづるを捧げにも行きました。禎子さんという名前をきいて、おばけを思い出しました。もしかしたら、この方からきているのかもしれないと思い、少しひどい話だなと思いました。禎子さんはつるを千羽折ると病気が治ると信じていたそうです。それならば、私は何千羽ものつるをたくさんの人達が折れば、世界が平和になるのではないかと思いました。そして、そうなることを願ってつるを捧げました。

この二日間、私はとても貴重な体験をさせていただきました。戦争とは、原爆とは、どの様なものかを考えることができました。一度起きたものは、失ったものは元には戻らない。だから、私達がするべきことは、何をすれば平和に近づくのかを考え、行動することなのだと分かりました。平和に近づく第一歩として、今回の経験をたくさんの人に伝えていきたいと思います。

原爆がもたらした人々への苦しみ

東城陽中学校　2年
山本　桜

私が広島派遣団に参加した理由は、前に広島派遣団に参加した知り合いの話を聞き、自分の目で原爆の怖さを見て、広島のことを知りたいと思ったからです。

私が持っていた広島という町のイメージは、原爆が投下された町だから、緑が少なく、暗いところだと思っていました。ですが、広島に実際に行ってみると、緑が多く、とても美しい町でした。

一日目に行った平和記念資料館では、被爆した時に着ていた服や、身につけていた時計などが、生々しく、当時の話と共に展示されていました。その中でも一番心に残ったのは、ある生徒の制服でした。その生徒は建物疎開の作業をしていた時に被爆し、皮膚がとけて、着ていた服にはりついてしまいました。なので、服を脱がすと皮膚がむけてしまったそうです。しかも、服を脱がせたのは母親だったそうで、自分の子の皮膚をはいでいるような気持ちだったのだろうと思うと、胸がしめ付けられました。

今回、広島派遣団に参加するにあたって、千羽鶴を五十羽折って持って行ったのですが、千羽鶴にまつわる話で心に残ったのが、佐々木禎子さんの話です。禎子さんは千羽鶴を折ると元気になると信じて折っていました。でも、禎子さんの余命を知っていた母親が、千羽鶴を完成させたら元気になると信じていた禎子さんの気持ちを絶望させたくなかったので、少しずつ、千羽にならないように捨てていきました。禎子さんのお母さんは、毎日自分の子が願いを込めて折っている鶴を捨てるのはすごくつらかっただろうと思うし、でも、捨てていったのは禎子さんを思ってのことだったので、とても複雑な気持ちになりました。

二日目の追悼平和祈念館では、被爆して全身の皮がずるむけになって、死にかけていた母親が「自分が死んだら、子ど

もが親のない子になってしまう」と思い、必死に生きようとした姿に心を打たれました。

今回、広島派遣団に参加して、被爆者の方の話を聞いたり、爆心地などを見学して、改めて戦争のおそろしさを知り、平和を大切にしなければいけないと思いました。そして、私に家族や友人がいるのは当たり前ではなくて、幸せで恵まれていることだと思いました。これから生きていく中で、自分の命も人の命も大切にして行きたいと思います。

そして、このおそろしい戦争を二度と繰り返さないために、平和を願いつつ、私が聞かせてもらったように、私も今回の広島派遣で体験し、学んだことを、色々な人に伝えいきたいと思います。

苦労してきた広島県

東城陽中学校　3年
岸　駿　斗

僕は広島の原爆の話は学校の授業で習っていたため、だいたいは知っていた。しかし、実際には見たことがなかったため、広島に行くことを楽しみにしていた。

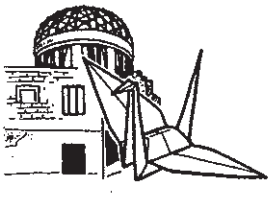
僕が広島で学んだことは二つある。一つ目は核兵器の恐ろしさである。たった一発の原子爆弾で広島の地をめちゃくちゃにするほどの威力がこの世には存在してはいけない。また、爆発だけで人の命をうばったのではないということがわかった。爆発してから爆弾の中から放射能という物が出てきて、人々を苦しめ、死に至らせたのだ。現在も放射能の影響で苦しんでいる人がいると聞いた。この人達を絶対に忘れてはいけないと思った。そして、世界には約一万五千発の核兵器があるとされている。日本だけでなく、世界全体が核兵器をなくす運動を行ってほしい。

二つ目は広島の復活である。当時のアメリカは広島を調査し、「七十五年は草木がないだろう」と結論を出していた。しかし、原爆が落とされてから今年で七十二年になるが、今の広島では草木は立派に育つだけでなく、ビルがたくさん建っている。広島はアメリカの予想をはるかに超え、都会化していったのだ。これを見て、人々がすごく努力したんだなと感心した。今では、日本の中でも有名な都市となり、発展していることがわかった。

今回は広島に行ったから、広島の話しかしていないが、この話は長崎県のことでも言える。長崎は広島の三日後に原爆を投下された。しかも、その原爆は広島に投下されたものよりも威力があるとされている。しかし、その原爆を受けても、現在は、都会化しており発展している。このことから、僕は人々がどれだけ苦労してきたか本当によくわかった。

また原爆で家族を失った人達の話はとても心に残る話で、原爆投下前は幸せにくらしていたが、落とされてから悲しみがいっぱいだったということを聞いて、つらかったんだろうと思った。

今回はいい勉強になりました。



編集・発行　城陽市　企画管理部　秘書広報課

〒610-0195　京都府城陽市寺田東ノ口16・17
電　話　０７７４－５６－４０５０
ＦＡＸ　０７７４－５２－１１７５
ＵＲＬ　http://www.city.joyo.kyoto.jp/
E-mail　heiwa@city.joyo.lg.jp

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association
再生紙を使用しています。